

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基本とし、心身ともに健康で知性と感性に富み、人間性豊かな児童の育成を目指し、次の三項目を教育目標とする。

- 思いやりのある子・・・自分に自信をもち、友だちを大切にできる子
- よく考える子……………めあてをもち、意欲的に学習する子
- たくましい子……………あきらめない強い心とやり遂げる体力のある子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○子供が学びたくなる、明るく楽しい学校 ○保護者や地域の方が通わせたい学校 ○教職員が協働し、充実感と誇りのもてる学校
○児童・生徒像	○自分に自信をもち、友だちを大切にできる子 ○めあてをもち、意欲的に学習する子 ○あきらめない強い心とやり遂げる体力のある子
○教師像	○信頼し合い、認め合い、協力して指導に取り組む教師 ○授業力向上のために、努力を惜しまない教師 ○児童一人一人を大切に、確かな人権感覚を身につけた教師 ○保護者や地域の思いや願いを受け止め、学校教育に生かす努力を惜しまない教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○学校の現状について

・全校児童は550名。新1年100名が入学。18学級。特別支援教室に30名の児童が入室している。教職経験10年未満の教職員が52%（内5年目まで22.2%）を占めている。常に共通理解のもと同一歩調で統一した指導に努めている。経験豊かな先輩教員が増えてきたことにより、若手の教員を丁寧に指導する機会も増えてきていたが、昨年度から産育休、定期異動等により、初任者教員が増えてきている。学力向上のためにも、問題解決型学習を基にした授業力の向上が大きな課題である。PTAやPTAOB会、開かれた学校づくり協議会等、地域の方々に学校に寄せる熱い思いや期待は大きく、また、とても協力的である。児童数の増加に伴い、保護者の学校への思いや期待も変化してきている。本校の歴史と伝統を受け継ぎ、学校・保護者・地域の連携を強化しながら改革を進め、新生「加平の教育」を推進していく。

重点的な取組事項－1 学力向上

・区学力調査通過率70%以上を目指してきた。結果4月通過率は81.5%で目標を達成することができた。9月再調査通過率5ポイント増を目指して指導を積み重ねた。結果10.5ポイント増の92.0%を達成することができた。また、国語・算数の基礎的基本的な学力の定着70%以上の児童85%以上を目指してきた。結果、国語89.1%、算数84.4%、全体として87.5%で達成できた。70%に達成していない13.5%の児童を中心に児童一人一人の基礎的基本的な学力定着状況を把握して、90%以上達成に向けての努力を続ける。

重点的な取組事項－2 基本的な生活習慣の確立

・挨拶、基本的な生活習慣の確立等を目指した取組は、成果をあげている。特に挨拶については、教員・PTAによる挨拶活動に加え、全児童による挨拶活動（通年）を実施し、定着を図ってきた。通年で取り組んだことは成果につながった。生活リズム向上等の基本的な生活習慣の確立に対する取組についても少しずつではあるが成果を上げてきている。「早寝」が大きな課題である。保護者会やHP・学校だより等を活用して、保護者・地域の方への情報発信の方法をさらに工夫していくことが必要である。

重点的な取組事項－3 体力・運動能力の確実な向上

・年間指導計画に基づき、体育の授業、食育・保健指導を通して児童の体力・運動能力の向上に努めてきた。体力テストの結果から特に、「投力」「握力」「長座体前屈」「瞬発力」に課題が明確になっ

た。各学年で「体力向上の手立て」を策定し取り組んでいる。来年度は、課題である「投力」「握力」「長座体前屈」「瞬発力」について具体的な手立てをもって指導にあたっていく。体育的活動については、体育朝会の内容の見直しと計画的な実施、持久走や縄跳び等の取組方法の工夫を図る。保健指導・食育指導についても年間計画に基づき、養護教諭・栄養士と連携した指導を実践してきた。常にPDCA(計画→実践→評価→改善)のサイクルで改善し続けてきたことで成果を上げている。今後も常にPDCAサイクルを大切に取組の充実に努める。

重点的な取組事項—4 豊かな心の育成

・「学校は楽しい」自己評価95.9%で設定目標を達成した。今後も道徳教育の充実、たてわり班活動、ふれあい月間、音楽集会・鑑賞教室等による心の教育の充実を図る。また、課外スポーツ活動、環境かるた・将棋大会・百人一首等の区のイベントに向けての練習や大会・イベントへの参加等、自分の得意なこと・好きなことに取り組める場を設定する。

重点的な取組事項—5 幼・保・小・中の充実

・年間計画に基づき、幼・保・小・中の連携の充実に努めた。幼・保・小の連携については、近隣幼稚園との交流活動において小1プロブレムを意識して内容の改善を進めてきた。また近隣幼稚園・保育園の参観・意見交流を通して、発達段階における指導の違いを認めつつ、小学校への円滑な接続に向けての指導改善に生かすことができた。小中連携については、教科別分科会で、講師を招聘し、研究授業・協議会を通して、小中の学びの連続性と児童・生徒のやる気を引き出す工夫について学ぶことで指導力の向上に努めてきた。今後さらに小中教員が協働して指導法等の統一を目指し、授業研究・協議を通して、授業力・指導力を互いに高めていけるように努める。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間(年度) H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	規律ある行動・健康な体				◎	◎
3	豊かな心を育てる		◎	◎	○	○
4	幼・保・小・中の連携	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項—1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●
基礎的基本的な学力の定着	○調査目標値通過率 82.3% ○年度末到達目標 通過率70%以上 ○令和3年度目標 通過率85%以上	・区学力調査通過率 82.3%(7月)で当初目標を2.3ポイント上回った。 12月再調査では通過率5ポイント増を修正目標とし、結果88.9%で6.2ポイント増を達成。	・7月通過率は国語82.3%(前年度比0.9ポイント増、算数82.2%(前年度比0.6ポイント増)、全体82.3%で前年度比0.8ポイント増で、当初の設定目標80%以上を達成した。12月には、国語87.7%、算数89.3%、全体88.5%となり、設定目標(4月比5ポイント増)を3.5ポイント増で達成した。児童の実態に応じた新たな目標を設定し、指導改善と個に応じた指導を充実し、学力向上を推進する。 ・学力定着状況と具体的な取組は6(1)を参照。		◎

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
改善	朝学習の 充実	国語・算数 (全児童)	毎週火・ 水・金 朝15分	【指導体制】担任＋専科による 【ねらい・使用教材】 ・学習内容の復習・確認 ・プリントやドリル	・ミニテスト、 ワークテスト	・正答率・通過率 各80%以上	達成率88.9% で目標達成することができた。	国語・算数を中心に基礎的な内容の定着を図ってきた。定着しない児童への指導の手立てを考えていく。	◎
改善	放課後 補充教室 (全教職員)	算数(正答 率70%未 満の児童)	毎週 木 放課後 30分	【指導体制】担任＋専科 【ねらい・使用教材】 ・つまずきに応じた指導 ・ベシックドリル他	定着度 確認テスト (12月実施)	・9月通過率 80%以上	9月定着度確認テストでの 目標値通過率88.5% で目標達成できた。	ケアレスミスが目立ち点数を落としてしまう児童が多かった。なかなか定着しない児童について、今後も指導体制・方法等工夫改善して指導を進めていく。	○
改善	放課後補充 (担任)	国語・算数 中心 (全学年)	可能な 放課後	【指導体制】担任 【ねらい・使用教材】 ・つまずきに応じた指導 ・教科書や次へのステップ等	定着度 確認テスト (2月実施)	・2月通過率 70%以上	通過率 国語 82.1% 算数 84.1% 全体 83.1%	可能範囲での実施とし、実施回数等の調査はしなかった。通過率は、国語82.1%、算数84.1%、全体83.1%で、設定目標は達成した。教職員全員による補充教室、そだち指導等を通して今後も児童のつまずき分析を適切に行い、個に応じた指導の充実を図る。	◎
継続	家庭学習 の手引き の活用	全教職員 全児童	年3回	【ねらい・目的】 ・「家庭学習の手引き」の 配布(6月)、啓発(9月・1月) ・宿題の提出率把握と指導	宿題提出 状況調査	・宿題提出率 90%以上	平均提出率93.5%で目標を達成した。	家庭学習の習慣が定着してきている。低学年20分・中学年40分・高学年60分の家庭学習の目標時間も90.0%まで定着してきている。維持していく。	◎
新規	授業力向上 ① 校内研究 国語	全教職員	年6回	【ねらい・目的】 ・校内研究(文学的文章の指導) 講師を招聘した講演会1回 模擬授業研究 各学年1回	講演会実施 模擬授業実施	・講演会 1回 ・模擬授業研究 各学年1回	小中連携 ・講演会1回実施 校内研究(国語) ・模擬授業 各学年1回実施	校内研修では、模擬授業研究会を各学年1回、講義3回を実施した。学んだことを日々の授業改善に生かしてきた。小中連携では、講師を招聘しての講演会1回を実施した。	○

新規	授業力向上 ② 問題解決型 学習の定着	全教職員 全教科	年間	【指導体制】 ・管理職、教科指導専門員 【ねらい・目的】 ・管理職、教科指導専門員 による授業観察・指導 ・問題解決型学習の定着	児童アンケート	児童アンケート 肯定的評価 (80%以上)	児童アンケート 肯定的評価 88.2%	「めあて」「自力解決」「学び 合い」「まとめ」「振り返り」 の展開が定着してきた。 「ねらいを明確にした授業」 『やる気を引き出す指導の 工夫』を視点に、子供の思 考の流れを大切にしたい授 業づくりを進めていく。	◎
----	------------------------------	-------------	----	---	---------	-----------------------------	------------------------	---	---

重点的な取組事項－2		規律ある行動・健康な体づくり				
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果		コメント・課題	達成度
規律ある行動・健康な体づくり		○全項目 自己評価 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 全項目で設定目標達成 朝の準備 : 84.0% 名札の着用 : 87.2% 清掃等当番活動 : 94.7% 外遊び : 86.8% あいさつ・返事 : 95.7% 時間を守る : 92.1% 		・全校共通行動での指導により、全項目ともに設定目標を達成した。	◎
B 目標実現に向けた取組み						
項目	達成基準	具体的な方策		実施結果	コメント・課題	達成度
規律ある行動	○朝の準備、名札の着用、そうじ、外遊び、あいさつ・返事、時間を守る 各項目 自己評価 80%以上	○教職員による挨拶活動（通年） ○学級・学年・全校指導での指導の徹底 ・生活指導部での取組 ・生活指導夕会での情報共有と共通行動 ・生活習慣強化週間（年2回）	・教職員による挨拶活動を通年で実施。 ・「共通行動で」全校統一した指導を実施 ・各項目とも設定目標達成	<ul style="list-style-type: none"> 朝の準備 : 84.0% 名札の着用 : 87.2% 清掃等当番活動 : 94.7% 外遊び : 86.8% あいさつ・返事 : 95.7% 時間を守る : 92.1% 生活習慣強化週間：年2回実施 早起き : 88.1% 朝食摂取 : 97.9% 早寝 : 67.6% 	・全校共通行動での粘り強い指導により、全項目設定目標を達成した。今後は自己評価のめやすを明確にして、児童の自己評価力も高めていきたい。 生活習慣強化週間を2回（9月・1月）に実施した。早寝（88.1%）、朝食接種（97.9%）で目標としていた80%以上達成した。しかし、早寝については、67.6%と課題が残る。保護者会の場やお便り等を通して家庭への啓発を続けていく。	○

<p>健康な体づくり</p>	<p>○外遊びを進んで運動することが好き 自己評価 80% 以上</p> <p>○体育授業の充実</p> <p>○食育・保健指導の実施</p>	<p>○外遊びの奨励 ○長縄跳び、持久走の取組</p> <p>○体育指導技術向上のための 実技研修(年2回以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育部だよりの発行 ・運動量の確保 ・体力・運動能力調査の実施 (実施可能な項目) <p>○食育に関する啓発活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食ニュースの発行(172回) ・食育だよりの発行(月一回) <p>○健康に関する啓発活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室だよりの発行(毎月) <p>○担任と養護教諭が連携した 保健指導実施 (全学級年1回以上)</p>	<p>・1日1時間以上外遊び・運動する児童 82.0%達成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育指導実技研修 3回実施。 ・体育部だより(体育授業資料) 4回実施。 <p>・給食ニュースの発行 172回実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育だより 毎月1回発行。 ・昼の校内放送やZOOMによる食育指導を実施。 <p>・保健だより 毎月1回発行。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発育測定開始時にショートの保健指導実施 各学年2回 ・担任と養護教諭が連携した保健指導 全学級1回実施 	<p>・設定目標は達成した。しかし、感染症の影響から外遊び・運動する児童は例年より減ってしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育授業に使える運動、内容について実技研修を3回実施した。学んだことを生かした授業が展開された。また、体育だよりを発行し、具体的な授業内容、方法を提供したことにより、運動量を確保してきた。 ・例年ランチルーム給食の機会を活用して食育指導をしてきたが、本年度は中止とした。「給食ニュース」を放送するなどを通して、食育に関して児童に伝えてきた。食育だよりを通して、保護者も啓発してきた。 ・毎月の保健だよりを通して保護者啓発をしてきた。 ・発育測定時の保健指導、担任と連携した保健指導を実施することができた。次年度も計画的に実施していく。 	<p>◎</p>
----------------	---	--	---	---	----------

重点的な取組事項－3		豊かな心を育む		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>自己肯定感・思いやりの心を育てる</p>	<p>○「楽しく学校生活を送っている」 自己評価 90%以上</p>	<p>○児童アンケートで 「楽しく学校生活を送っている」</p> <p>児童アンケート：95.8%達成</p>	<p>「楽しく学校生活を送っている」について95.8%で設定目標を達成できた。感染防止対策で、できないことの多い中、できることを考えて、工夫してきた。今後も教育活動を工夫し、友だちや先生とのかかわり合いを通して、すべての児童が楽しい学校生活であるよう努める。</p>	<p>◎</p>

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の向上	○楽しく学校生活を送っている 学校が楽しい 90%以上	○ふれあい月間の取組(年3回) ○道徳授業の充実 「思いやり・親切」「人権尊重」での公開授業実施(年1回) ○全校朝会で活躍の賞讃	・ふれあい月間実施(年3回) ・道徳授業地区公開講座実施(1月) ・日々の活動でのよさやがんばりを賞讃するとともに、全校の前で表彰する等実施。(通年) ・「学校が楽しい」 児童評価 95.8% 達成	・ふれあい月間には、いじめ防止に関する朝会講話を実施した。連動して「いじめに関する授業」を実施した。 ・「思いやり・親切」「人権尊重」を重視し、道徳授業地区公開講座として1月に授業公を実施した。 ・朝会では読書感想文や書き初めなど自校での学習の成果や課外活動での受賞など全校で賞賛した。 ・「学校が楽しい」と感じている児童95.8%で設定目標を達成した。今後も、教職員が知恵を出し合い、できることを考え、工夫していくことで「笑顔輝く加平小学校」を目指していく。	◎
思いやりの心の育む	○異学年活動や児童会活動は楽しい 80%以上	○クリーン作戦実施(年1回) ○人権メッセージ等人権尊重の取組 ○委員会活動/クラブ活動(年5回) ○1年生と6年生との交流 ・読み聞かせ(週1回)	・クリーン作戦中止 ・人権メッセージは6年全員が取り組んだ。 ・委員会活動・クラブ活動(年4回実施) ・児童会活動は楽しい。 90% クラブ活動 94.0%達成 委員会活動 92.9%達成 全 体 93.6%達成 ・1年生と6年生の取組として、読み聞かせは実施できなかった。 かわりに「教えて6年生」と題して、1年生からの質問に6年生が答えると言う活動を実施した。 各学級1回実施	・全校での異学年活動、クリーン作戦は中止とした。 ・6年児童全員が人権メッセージに取り組んだ。本年度人権メッセージ発表会は中止。 ・クラブ活動では、できる活動を考えながら実施してきた。児童自己評価の結果、「活動は楽しい」94.0%達成。委員会活動は、日常活動を大切に指導してきた。児童自己評価の結果、「活動が楽しい」92.9%を達成した。 ・異学年活動は中止となった。異学年でのかかわりは、思いやりの心や感謝の気持ちをもつために大切な活動ととらえている。高学年の児童の考えも聞きながら、今後の活動を工夫し、充実していく。	○

読書に親しみ、豊かな心を育む	○読書が楽しい 80%以上	○読書タイム実施(10分間 週3回) ○読書旬間実施(年2回)	・読書タイム 70 回実施 ・読書旬間(1月)の年1回に実施。 ・読書が楽しい 児童自己評価 94.3%達成	・読書が楽しい94.3%で目標達成。読書タイムにより落ち着いてその後の午後の授業に取り組んでいる。読書旬間は2月1回の実施となった。読書タイム、読書旬間の取組を改善し、読書の質を高める工夫をし、今後も読書に親しむ機会を増やしていく。	○
----------------	---------------	------------------------------------	---	--	---

重点的な取組事項－4		幼・保・小・中の連携の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
幼・保・小・中の連携の充実		○近隣保育園・幼稚園との情報交換 各1回以上 ○近隣中学校との情報交換 各1回以上 ○小中連携研修 1回以上	・近隣保育園・幼稚園との情報交換 各2回実施 ・近隣中学校との情報交換 各2回実施 ・小中連携研修 1回実施	・交流活動や参観はできなかったが、近隣保育園・幼稚園との情報交換を各2回実施した。また小学校生活の紹介DVDを作成し、配付した。今後もできることを考え、連携を推進していく。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
近隣保育園・幼稚園との情報共有	○近隣保育園・幼稚園との情報交換	○近隣の保育園・幼稚園との情報交換 (1回以上)	・近隣保育園との情報交換 2回実施 ・近隣幼稚園との情報交換 2回実施	・近隣保育園・幼稚園と子供たちの活動の様子などの情報交換を各2回行った。また、交流活動ができない状況であったために、小学校1年生の学校生活の様子をDVDにまとめ、近隣保育園・幼稚園に配付することができた。	◎
近隣中学校との情報交換	○近隣中学校との情報交換	○近隣の中学校との情報交換 ・学習指導と生活指導(1回以上)	・近隣中学校との情報交換 2回実施	・近隣中学校との卒業生の様子や活動の様子についての2回情報交換を行った。	◎
小中連携研修	○課題解決型授業展開の充実を目的とした研究会実施(年1回)	○全体会(年1回) ・講演会(各1回) ○来年度計画(1回以上)	・講師を招聘しての講演会 1回実施 ・来年度計画 1回実施	・講師を招聘して小中連携の講演会を1回実施した。今後、小中連携校同士で来年度の計画を立案していく。実施可能な方法を考え、研修の充実に努める。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプラン

区学力調査通過率80%以上を目指してきた。結果7月通過率は82.3%で目標を達成することができた。12月の再調査で通過率5ポイント増を目指して指導を積み重ねた。結果6.2ポイント増の88.5%を達成することができた。また、国語・算数の基礎的基本的な学力の定着率70%以上の児童を80%以上と設定し、目指してきた。結果、国語88.9%、算数91.8%、全体として90.3%で達成できた。70%に達成していない9.7%の児童を中心に児童一人一人の基礎的基本的な学力定着状況を把握して、90%以上達成に向けての努力を続ける。

【課題】①国語 ・3年生通過率78.3%、4年生通過率79.7%であり、学習の定着状況が十分とは言えない。3年生は、特に説明文において、目的に応じて文章の構成を捉え、読み取ることの習熟の度合いが低い。語彙不足から文章を読み取る力が十分ではない。4年生は、特に文学的文章、説明的文章において、目的に応じて文章の構成を的確に捉え読み取ったり、目的に応じて書いたりする力についての習熟の度合いが低い。題意をきちんと読み取る力が十分ではない。

②算数 ・4年生通過率79.7%であり、学習の定着状況が十分とは言えない。特に図形領域と数量関係の領域の数学的な考え方の観点の習熟の度合いが低い。特に直方体・立方体を構成する面や辺の関係を理解することが十分でない。

【対策】①国語 ・授業では、音読を重視するとともに、必要に応じて自ら辞書で調べるなどして言葉を大切に扱い、語彙を増やし正しく読むことができるように指導する。

・個別指導では、必要に応じてMIM等を取り入れ、言葉を正しくとらえられるように指導する。

②算数 ・授業では、問題解決型の学習展開を大切に、自力解決の段階で机間指導時に個別指導や必要に応じて小集団指導を取り入れ、既習事項を活用して考えることができるよう指導する。また自分の考えを説明できるように、図・式・言葉等を用いてノートにまとめる活動を重視しながら指導する。

・図形領域の立体については、実物を直接触れるという経験も重要である。立体に触れる機会を多くしながら指導する。

・全教職員による補充学習では、苦手な単元の「知識・技能」を「考え方」と併せて指導し、既習事項として活用できるよう指導する。

・個別指導では、担任が放課後の可能な時間の中で個別に指導する。

イ 規律ある行動・健康な体づくり

・当初予定していた活動や取組が十分できなかった。挨拶については、教員・PTAによる挨拶活動に加え、児童による挨拶活動が中止となったが、教職員による挨拶活動を通年で取り組んだことにより、適度な声で挨拶する子供が増えてきた。立ち止まって挨拶をする子や廊下ですれ違う時に会釈をする子も増えてきている。今後は、自己評価のめやすを明確にして、児童の自己評価力も高めていきたい。また、健康な体づくりも、制約の多い中、体育の授業等の中で、できることは何かと考え、体力向上と健康な体づくりに努めてきた。体育部による実技研修や授業に関する資料の提供により、短縄跳びの取組や体づくりの運動、持久走の取組など、できることから始め、感染防止対策をしながら活動を少しずつ広げてきた。保健指導・食育指導についても、ショートの保健指導、給食だよりによる食育指導などできる指導を実践してきた。来年度は、常にPDCA(計画→実践→評価→改善)のサイクルで改善し続けてきたことで成果を上げている。今後もPDCAサイクルを大切に取組の充実に努める。

ウ 豊かな心の育成

・子供による自己評価で「学校は楽しい」は95.8%で設定目標を達成した。今年度はたてわり班活動や音楽集会・鑑賞教室等実施できず、子供たち同士が直接ふれあう機会が大きく減少してしまった。その状況の中で、子供たち同士をつなぐ学級経営を基本としながら、ZOOMを活用した児童集会等を企画・実施してきた。来年度は、道徳教育の充実、たてわり班活動、ふれあい月間、音楽集会・鑑賞教室等による心の教育の充実を図る。また、課外スポーツ活動、環境かるた・将棋大会・百人一首等の区のイベントに向けての練習やイベントへの参加等、自分の得意なこと・好きなことに取り組みめる場を設定する。

エ 幼・保・小・中の充実

・当初予定していた計画や取組は十分にはできなかった。幼・保・小の連携については、近隣幼稚園・保育園との連携については、電話による情報交換と小学校の紹介DVDを作成・配付をした。小学校への円滑な接続に向けて、今後も情報交換はしていく。小中連携については、講師を招聘した講演会を1回実施した。教科別分科会で、講師を招聘し、研究授業・協議会を通して、小中の学びの連続性と児童・生徒のやる気を引き出す工夫について互いに学び合い、授業力・指導力の向上に努めたい。今後さらに小中教員が協働して指導法等の統一を目指し、授業研究・協議を通して、授業力・指導力を互いに高めていけるように努める。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

○学校、家庭、地域にはそれぞれの役目があります。学校は、子供たちに学力や体力をはじめ、人格形成の基礎を身に付けさせていく役目があります。また、子供たちに基本的な生活習慣が身に付くようにして、学習効果を高めていくことも役目です。この基本的な生活・学習の習慣を身に付けることは学校だけでも家庭だけでもできません。互いがフィフティフィフティの同等な関係で、それぞれの役割を果たすことが重要です。基本的な生活・学習の習慣の土台は、家庭であり、家庭の協力が不可欠です。「躰」「健康管理」「家庭学習習慣」「社会規範(きまり)を守る」などは家庭の役目です。そして、家庭・地域・学校にとって共通の役割は、子供たちに「忍耐強さ」「根気強さ」「自制心(心の強さ)」、「意欲」「誠実さ」「好奇心(興味・やる気)」、「社会性」「協調性(思いやり・協力)」「人とかかわる力」などの力を育てていくことです。家庭で基盤をつくり、学校で知識や知恵を身につけ、地域で実践していくような連携がとれることを願っています。学校・家庭・地域が互いに同じ方向を向い

て、子供に働きかけることが大切です。「子供たちのために」とともに力を合わせてまいりましょう。

○保護者・地域の皆様の学校に寄せる熱い想いを強く感じています。学校は、子供あつての学校、地域あつての学校だと考えます。ですから、学校は、子供や保護者、地域の声に耳を傾け、その願いや思いを受け止めて教育活動を推進し、「笑顔輝く加平小学校」を実現していきたいと考えます。そのためにも、学校は、子供たちの学校での学習面・生活面の状況を保護者の皆様や地域の皆様に積極的に発信することで共有し、協働して子供たちに働きかける体制を確立していきたいと思ひます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

○平成26年度に新校舎に移転してから7年が経過した。新校舎の恵まれた環境を生かした教育活動を進めてきている。来年度の新入児童数は96名3学級が見込まれている。全校児童は561名、学級数も18学級の予定である。特別支援教育については、特別支援教室を中心に学級との情報交換を密にし、個に応じた指導をさらに充実させ、児童一人一人のよさを引き出す指導を推進していく。またビオトープを生かした環境教育や道徳教育や特別活動の充実を図り、豊かな心の育成にさらに力を入れていく。何よりも日常の授業を大切にして、「人とかかわる力」「自分を知る力」「解決する力」等も育成していきたい。今後も児童数・教職員数ともに増加が見込まれる。これをチャンスと捉え、学校全体を活性化させ、チャレンジ精神をもって教育活動を充実させていくとともに、家庭・地域との連携を強め、ともに子供に働きかけていく体制を強化していくことが本校の使命である。